

／ 発見！ ／



おごおり遺産

No.34

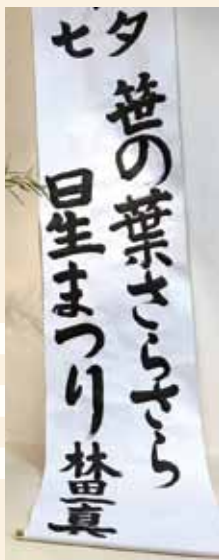
七夕



7月7日は七夕です。「七夕の里おごおり」の由来や、市内で現在も続いている行事や伝承をご紹介します。



七夕スイカ



掛軸

平成元年、七夕伝説になぞらえた「小郡に集う人が新しい出会いを経験できるまちづくり」として「七夕の里おごおり」の取り組みが始まりました。そして、平成30年には七夕プロジェクトが立ち上がり、さまざまなイベントを通して七夕の里をPRしています。

そもそも、なぜ小郡は「七夕の里」なのでしょう。2ページでも紹介していますが、小郡市には宝満川を挟んで、織女神をまつる媛社神社（通称・七夕神社）と、牽牛をまつる老松神社があります。それが天の川の対岸にたたずむ織姫と彦星のように見えることが由来の一つです。

牽牛社は、彦星である犬飼屋（地元では「犬飼さん」と呼ばれています）をまつっています。もともと田んぼの中にあり、大正12年（1923）に神社へ合祀（※）されました。牽牛社の設置時期は分かっていますが、七夕伝説に基づいてまつられるようになったと考えられます。なお、神社の神殿内には、江戸時代の作とされる牽牛像がまつられています。

※合祀：神様を一緒にまつること

媛社神社は、機織りに優れた織女神をまつています。そも



そも「たなばた（七夕）」の由来の一つは、乙女が機を織って棚に供える「棚機」という行事だと言われます。そこから、機織りの上達を願う人々が棚機津女（織女）に祈るようになりました。また、七夕伝説で機織りが上手な織姫を、織女と同一視したこともあり、媛社神社を「七夕神社」と呼ぶようになったと考えられます。神社の鳥居には、「棚機神社」の文字を見ることができま

す。なお、神社の神殿内には、明和6年（1769）の作の織女神像がまつられています。

笹の葉に願いごとをしたためた短冊を飾ることで知られている七夕ですが、小郡市周辺では小学1年生のいる家庭で「初七夕」を行います。「初七夕」では、祖父などに手を取ってもらいながら書いた習字を飾ったり、「七夕スイカ」というツルが長くて大きなスイカを贈ってもらったりして、子どもの健やかな成長を祈ります。

また、七夕に関する伝承も数多く伝わっています。「七夕の朝、芋の葉にたまった露で墨をすって字を書くと、字がうまくなる」「七夕の日に、七夕神社近くの川で髪を洗うと髪がきれいになる」「七夕の日は、必ず雷が鳴って夕立が来る」など。

小郡市の七夕は、月遅れの8月7日。今年の七夕は、小郡ならではの七夕を迎えてみませんか。

問 文化財課文化財係

☎ 75・7555